

## 総合型クラブが結成したスポーツ少年団のメリットと期待される効果 (MIYAZAKI うづら ai クラブ 宮崎県宮崎市)

### 1. 女の子の嘆き「陸上競技をしたいのに陸上クラブがない」

MIYAZAKI うづら ai クラブ (以下、クラブ) は、クラブ内に“スポーツ少年団久峰陸上クラブ”を結成し、今年(平成24年)で6年目を迎えています。現在、このスポーツ少年団(以下、少年団)で活動している小中学生は35名です。

現在の子どもの活動を支える親の負担を考慮し、子どもを地域で支える団体にするために、総合型地域スポーツクラブ(以下、総合型クラブ)を育成母集団として“スポーツ少年団久峰陸上クラブ”を立ち上げた背景は次のとおりです。

クラブのある久峰地域に住む一人の小学生の女の子が「陸上競技をしたいのに、この地域には陸上スポーツ少年団がない」と諦めて他種目の少年団に入っている、という話をクラブのスタッフが聞いたこと。他地域で陸上スポーツ少年団を立ち上げ10年以上の指導経験をもつ指導者が、久峰地域へ引っ越してくるにあたり陸上競技を指導する機会を探していたこと。そして、近隣の高校の陸上競技部も利用している陸上競技場のある運動公園があり、クラブでの利用も可能なこと。——このような好条件が重なったことが背景にあります。

### 2. 総合型クラブにスポーツ少年団があるメリット

クラブ内に少年団があることで、様々な種目を行っているクラブ外の他の少年団とも同じ立場で練習や競技、研修ができることとなります。クラブでは、少年団として参加できる大会への参加、クラブ外の他の少年団との交流記録会、保護者のスポーツリーダー研修会への参加など、少年団であることを活かした活動と合わせて、自治体から少年団に出される補助金も得ています。

宮崎県主催の「トップアスリート派遣事業」(\*1)を活用して小中一貫指導を受けたり、宮崎市が行う区域内中学校との「小中学校連携スポーツ振興事業」(\*2)として年3回の合同練習会も行ったりしています。さらに今年は陸上競技部のない中学校に通う中学生が、久峰陸上クラブに所属したまま様々な大会に参加できるように手続きを始めています。

こうして広くクラブ名が伝わることで認知度が上がり、地域住民からのクラブの他教室への参加や協力も得やすくなります。今年より少年団を含む「地域内こども活動支援情報誌」作成・発行をクラブが行うようになったことで、よりクラブ名を浸透させるきっかけになっています。

(\*1)「トップアスリート派遣事業」・・・クラブ運営上の課題及び活動の充実を図るための一助として、総合型クラブにアスリート等を派遣する事業。

(\*2)「小中学校連携スポーツ振興事業」・・・小中学校のスポーツ活動における指導者及び児童・生徒相互の交流と連携を深めることによって、小中一貫した指導体制の整備や運動部活動への加入促進を図り、地域スポーツの更なる振興を目指す事業。

### 3. スポーツ少年団が総合型クラブと共存するメリット

少年団としてクラブに所属することで、クラブが会場確保や会費徴収などの会計処理、団員募集や



トップアスリート派遣事業(小・中・高)



小中学校連携スポーツ振興事業

文書発行などを行うため、保護者の負担が減ることが少年団側の大きなメリットとしてあげられます。また、指導者の交代がなく小中連携で行うことができるので、長期的な視点での継続的な指導や、一貫したビジョンに向かっての練習が可能になります。クラブそのものが地域住民で支えられているので地域からの支援や応援をもらえることなど、既存の少年団にも伝えられるメリットが多くあげられます。

少年団の既存の制度と総合型クラブの取り組みを融合することで、両者が共存できると考えられます。既存の少年団の方々に少しでも総合型クラブの運営方法に共感してもらえるような活動をクラブは目指しています。

#### 4. 課題と展望

少年団を総合型クラブ内で運営していく上の課題として、クラブが育成母集団になることで「少年団の保護者間の横のつながりが希薄になりつつある」と現場のスタッフは感じているそうです。そこで、久峰陸上クラブ独自の約束事を指導者の方でつくり、児童生徒および保護者に「共に支え合う意識の向上」を伝えています。

また、「主たる指導者」を支える指導者を募りたいところですが、同じビジョンや価値観で少年団を運営できる人材になかなか巡り合えない中、少年団の一期生が高校生になりました。時折、久峰陸上クラブの手伝いに来ているので、「将来は指導者やスタッフに」とクラブでは期待を寄せています。

指導者の指針である「走ることが大好き」と思える選手の育成ができるように、「クラブとして精一杯の支援をしていきたい」のが、スタッフの皆さんの思いです。地域のみんで育てた選手が陸上競技界で活躍することが一番望まれますが、子ども達が一生懸命に取り組むことを学び、将来様々な分野で活躍することを期待しています。

今後、少子化の影響を考慮して、クラブでは様々な事業展開ができるように状況とニーズを上手に把握し、地域で競技を楽しむトップアスリートを育成できるようなクラブづくりを目指しています。

(宮田育俊 宮崎県クラブ育成アドバイザー)

#### 【MIYAZAKI うづら ai クラブ プロフィール】

- 1. 設立** 年月日：平成 20 年 2 月 11 日  
経緯：広瀬北小学校 P T A 役員が中核となって子どものスポーツ環境を良くするために設立。
- 2. 地域** 人口：約 34,000 人（日常的な活動は主に佐土原町区域。宮崎市 40 万人）  
特性：歴史も古く、まちづくり活動の活発な区域。6 年前（平成 18 年）に佐土原町は宮崎市に合併。
- 3. 運営** 会員数：250 名（平成 23 年 3 月末現在）  
予 算：約 1,000 万円（平成 23 年度）  
※平成 24 年度自立支援・クラブマネージャー設置支援事業助成 5 年目
- 4. 特徴** 子どもの活動支援がメインだが、地域住民の様々なニーズに応えられるような活動を実施し、地域活性に繋がるまちづくりを目指している。
- 5. 連絡先** 〒880-0211 宮崎県宮崎市佐土原町下田島 20565-30  
TEL: 0 9 8 5 - 7 2 - 1 8 7 4 FAX: 0 9 8 5 - 3 3 - 9 4 9 0  
E-mail: [h\\_uzura@yahoo.co.jp](mailto:h_uzura@yahoo.co.jp) URL: <http://www.m-udura.com>

関連リンク：宮田育俊氏プロフィール

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid/504/Default.aspx>